

25年センター試験「地歴」「公民」は、 “合冊”化の方向！

[地歴・公民]、[理科] 2科目受験の
「中間時間」“10分間”の一時退出、原則不可！
大学入試センターの検証委、『報告書』を提示。

旺文社 教育情報センター 24年4月4日

大学入試センターは24年4月3日、1月のセンター試験において「地理歴史」と「公民」の問題冊子の配付ミスや試験開始時間の繰り下げが多発したことなどの問題で、原因究明と再発防止策等をまとめた大学入試センターの検証委員会の『報告書』を公表した。

『報告書』の内容は、24年センター試験の受験方法及び実施方法の変更、発生したトラブルの内容、受験者の救済措置、各トラブルの検証、再発防止に向けての提言、実施大学へのアンケート調査結果などである。

ここでは、受験生に関わる再発防止に向けた検証委員会の提言の概要等を中心にまとめた。

なお、当『報告書』は、文科省に設置されている検証委員会で検討され、25年センター試験実施に向けた改善策等が4月下旬を目途に取りまとめられる予定である。

<24年センター試験:受験方法・実施方法の大幅変更>

- ◎ 地理歴史(以下、地歴)と公民の試験枠を統合し、10科目から最大2科目が選択可能。
- ◎ 理科の3グループ制を廃止して試験枠を統合し、6科目から最大2科目が選択可能。
- ◎ 公民の出題科目に「倫理、政治・経済」(4単位相当)を新設。
- ◎ 「事前登録制」を導入し、出願時に全ての受験教科名と地歴、公民、理科における受験科目数、及び別冊子試験問題(数学、外国語)の配付希望を登録。
- ◎ 試験枠[地歴・公民]及び[理科]において、「2科目選択・受験」の場合、最初に解答する科目を「第1解答科目」、次に解答する科目を「第2解答科目」とする。
 - 「第1解答科目」(試験時間60分)と「第2解答科目」(試験時間60分)との間の10分間(中間時間)は、「第1解答科目」の答案用紙回収と「第2解答科目」解答用紙配付を行う。2科目受験の試験時間は130分で、「中間時間」での一時退出は原則、不可。
 - 「2科目試験枠」における受験者が“1科目利用指定”の学部等に出願した場合、ほぼ全ての国立大と半数以上の公立大では、従来の「高得点科目」による合否判定ではなく、「第1解答科目」を利用。

＜24 年センター試験：主なトラブル＞

- ★ [地歴・公民]における問題冊子の配付ミス＝81 会場、3,452 人
- ★ 試験開始時間 10 分以上繰り下げ＝48 会場、4,053 人
- ★ 英語リスニング機器の未搬入による試験開始 2 時間遅延＝1 会場、202 人
- ★ 地歴、公民などの「再試験」受験者数＝過去最多の 265 人(内、地歴、公民の受験者 212 人)

＜25 年センター試験：再発防止に向けた大学入試センター検証委の提言＞

1. 問題冊子の形態

○ 地歴、公民の問題冊子の配付の複雑さが配付ミス等の原因であったことなどから、検証委員会では、問題冊子は“合冊”化（または“2冊パッケージ”化）を行う方向で検討すべきであるとしている。

○ “合冊”化は、問題冊子配付ミスの再発防止に寄与し、実施方法の簡素化、試験開始前の準備時間の短縮化にも有効であるという。

○ 受験者の側にとっても、出願時の事前登録は『「地理歴史、公民」の受験登録と、「地理歴史、公民」の試験時間帯で受験する科目数（1科目または2科目）を登録するだけで済むこととなる。』（注：『 』印と下線は当方で付記。後述）

○ 地歴、公民の問題冊子の合冊化については、アンケート調査回収大学(短大含む。配付ミス有＝69 校/配付ミス無＝450 校、合計＝519 校)519 校中、321 校(62%)が回答している。内訳は、「配付ミス有」校が 55 校(80%)、「配付ミス無」校が 266 校(59%)である。

なお、「分冊のままとするが、2 教科 2 科目受験者には 2 冊の問題冊子を袋詰め」にする方策については、全体で 97 校(19%)が回答している。

* 注：上記の『 』内(下線部：報告書の原文)は、事前登録の際に記載する、地歴と公民の“教科名”と、地歴と公民の各“受験科目数”とが簡略化されるようになるともとれる。つまり、地歴と公民の合冊によって、“社会科系教科”（1 教科）として受験科目数は“全体で 1 科目または 2 科目”登録するともとれる。

こうした出題教科名(教科数)、試験枠名、問題冊子名などは、「受験教科数＝受験料」とも直接関わってくる問題であり、今後、明確にしておく必要がある。

2. 「監督要領」の改善

○ 24 年度の「監督要領」（試験監督者用マニュアル）は、前年度に比べて指示内容等の分量が増え(約200ページ)、時間繰り下げが多発した理由の一つになっているという。

また、地歴、公民及び理科については、受験方法、実施方法の変更に伴い新しい用語、表記が増え、一部の監督者はそれらを十分に理解しないまま、監督業務に当たったようだ。

○ こうした実態を踏まえ、試験当日の説明時間を短縮する観点から、検証委員会では「監督要領」のスリム化とともに、平易で明確な記述を求めている。

3. 地歴、公民、理科の2科目受験における「中間時間」

○ 地歴、公民、及び理科の2科目受験者試験室における「中間時間」の 10 分間は、「ト

イレ等の一時退室は、原則認めない」ことについての“周知徹底”を受験者側及び監督者側の両者に行う必要があるとしている。

○ 上記のような事項の“周知徹底”を図ると同時に、「中間時間」における“連絡要員の増員”を検討することが必要であるという。

4. 試験時間割の検討

○ 地歴、公民、及び理科をどの試験時間帯に配置するかについても、ミス未然防止を図る観点から改めて検討する必要があるとしている。

当検証委員会では、地歴、公民の時間帯を別の時間帯や第2日目に移動するなど複数の案について検討したという。しかし、地歴、公民の問題冊子の合冊化を前提とした場合、現行試験時間割より明らかに改善される案を見いだすには至らなかったという。

○ 検証委員会では、各科目の予想される受験者数、受験しない教科がある場合の受験者の待機時間等、様々な事情を総合的に勘案したうえで、さらに大学入試センターにおいて検討することを期待している。

* 注. 地歴、公民、及び理科の試験時間割については、学習指導要領改訂に伴うセンター試験出題教科・科目の変更等により、最近では次のように変更されている。

① 平成9(1997)年～17年(2005)年<旧課程入試>

- ・地歴＝第1日、2時間目(12:50～13:50)
- ・公民＝第2日、4時間目(16:30～17:30)
- ・理科①＝第2日、2時間目(12:50～13:50)
- ・理科②＝第2日、3時間目(14:40～15:40)

② 18(2006)年～23年(2011)年<現行課程入試>

- ・公民＝第1日、1時間目(9:30～10:30)
- ・地歴＝第1日、2時間目(11:15～12:15)
- ・理科①＝第2日、1時間目(9:30～10:30)
- ・理科②＝第2日、4時間目(15:15～16:15)
- ・理科③＝第2日、5時間目(17:00～18:00)

③ 24(2012)年～<現行課程入試：受験・実施方法の変更>

- ・[地歴・公民]＝第1日、1時間目(2科目受験＝9:30～11:40/
1科目受験＝10:40～11:40)
- ・[理科]＝第2日、1時間目(2科目受験＝9:30～11:40/
1科目受験＝10:40～11:40)